

1 研究主題

「自ら学び、考え、表現できる児童を育てる指導の工夫」

2 研究主題を設定した背景

(1) 今日の課題から

知識基盤社会の到来、グローバル化の進展など急速に社会が変化する中、これから生き抜く子どもたちには幅広い知識とともに、柔軟な思考に基づく判断や、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存など、変化に対応する能力が求められている。すなわち、このように大量な情報が生まれ、淘汰されていく社会の中では、知識の量や、情報をどれだけ知っているかということのみならず、それらを活用する力が一層求められ、社会にある問題を自分のこととして捉え、答えのない問題に直面しても他者と協働し、話し合いを重ねながらよりよく解決しようとする態度と力が必須の力となると考えられる。

また、近年の国内外の学力調査の結果などから我が国の子どもたちには思考力・判断力・表現力等に課題が見られることが指摘されている。

このようなことから、学校教育において、学び得た知識や情報を基盤としながら、自ら考え、判断し、表現する力を育てていくことが必要であると考えます。

(2) 本校の教育目標から

本校では、教育目標として、「郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」を掲げている。また、歴史的に培われてきた須古三近堂の教学精神「知・仁・勇」を、現代社会に照らして「正しく」「優しく」「元気よく」とし、児童の教育に反映するように努めている。この「知」のめざす児童像としてあげている「進んで学び、創造する子ども」は、自分の考えをもち、進んで表現する姿をめざしている。特に、本年度は、この児童像に『主体性＝自分（たち）で考え行動する』を重点課題として掲げている。

本研究主題に沿った教育活動を推進していけば、学び得た知識をもとに自分で考え、進んで表現する力の育成が図られ、本校教育目標の具現化にもつながると考える。

(3) 児童の実態より

本校は、白石町の北西に位置している。平成17年1月に、三町（旧白石町、旧有明町、旧福富町）が合併し新「白石町」となった。その白石町の中でも学校の規模としては一番小さく、全ての学年が単学級で、特別支援学級の2学級（知的障害、自閉症・情緒障害）を合わせて8学級の小規模校である。本校児童は、明るく素直で何事にも一生懸命に取り組むことができる。三世代同居の家庭が多く、家庭の教育力もしっかりしている。家庭や地域の学校への関心も高い。

真面目で、決められたことは最後までやり通すことができる反面、自分で判断し、考えや思いを表現することを苦手としているということも課題としてあげられる。

平成28年4月・12月実施の県学習状況調査の結果では、全ての学年、教科で県平均を上回った。しかし、言語事項や記述問題については、まだ十分とは言えず、基礎的・基本的事項の習得は十分にできているが、それを自分の言葉で表わしたり、自分の考えを説明したりする力はまだ十分ではないという傾向が見られた。

また、全国学習状況調査の意識調査を見てみると、本校の課題となる次のような結果が見られた。

「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦をしていますか。」・・・「当てはまる」0%（県25%）

「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。」・・・「当てはまる」7%（県18%）

「自分の考えを書く時考えの理由が分かるよう書いていますか。」・・・「当てはまる」7%（県31%）他にも、予習、復習に取り組んだり、ニュースや社会で起こっていることへの関心も持ったりしている児童の割合も、大きく県の結果を下回った。

このように見てみると、本校の児童は、与えられた課題や問題についてはしっかり取り組むことはでき、基礎・基本の力は身につけているが、主体的に物事に取り組んだり、進んで自分の考えや思いを表現したりすることについては課題があることが分かる。そこで、本校の教育課題を、①言語事項や語彙力の向上、②思考力・表現力の向上、③コミュニケーション能力の向上と捉え、児童が主体的に学んでいく授業をめざし、その工夫と改善に取り組んでいくことが必要であると考えた。

（4）これまでの研究から

平成26年度より、研究主題「自分や友だちのよさを知り、ともに伸びようとする児童の育成をめざして」～関わり合い、認め合う活動を通して～掲げ、道徳や学級活動、特別活動を通して人権教育に取り組んできた。それぞれの取り組みを通して、児童は、個人差はあるものの、「自分は大切な存在であること」「友だちも大切な存在であること」に気づき、友だちと協力しながら学校生活をよりよくしていこうとする態度が養われてきている。

人権教育で培った友だちの考えに傾聴し、自他の違いを認め合うことを大切にしながら、自分の考えや思いを持ち、それらを表現したり、友だちの考えや思いに共感したりしながら関わり合い、認め合う活動へとひろげていきたい。

これらのことから、研究の1年目である本年度は、「活用力」を、「主体的に物事にに関わり、身につけた知識や技能を使い、自分の考えや思いを表現する力」と考え、それを具現化するための授業の工夫改善を行っていきたく考えた。

2 研究の目標

自ら主体的に学び、考え、自分の考えを豊かに表現できる児童を育てていくための指導方法の在り方を探る。

3 研究の仮説

児童が主体的に学んでいく授業をめざし、その工夫と改善に取り組んでいけば、児童の主体性を育み、豊かに表現できる力をつけることができるであろう。

4 めざす子ども像

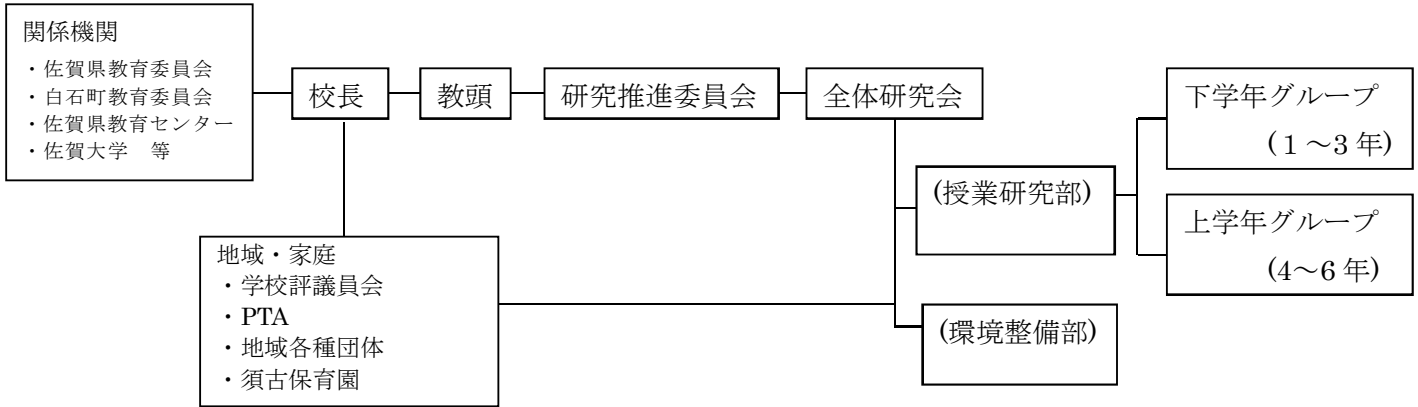
既習事項や既有体験を生かして、問題に進んで取り組み、自分の考えを表現できる子ども

- ・ 自分の力で問題を解決できる子ども（つかむ・考える活動）
- ・ 自分の考えを持ち、図や式、言葉で表現できる子ども（判断し表現する活動）
- ・ 友達に考えを筋道立てて伝える合うことができる子ども（交流し生かす活動）

5 研究の内容と方法

（1）研究の組織

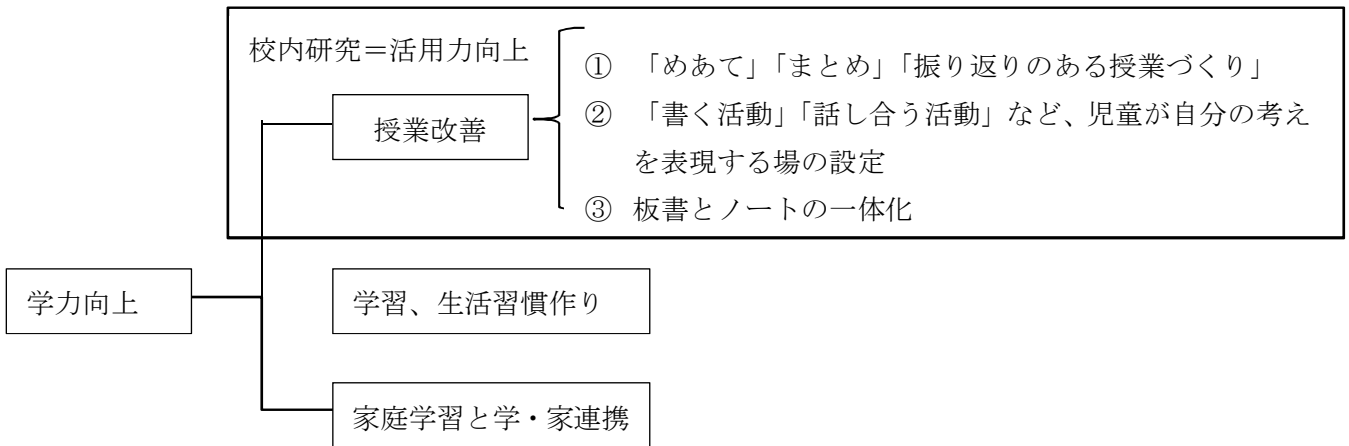
- ・ 学力向上のための「須古小スリーアップ作戦」として、「授業改善」「学習、生活習慣づくり」「家庭学習と学・家連携」を充実させていく。校内研究では、活用力の向上を目指し、3つの柱の中の「授業改善」に取り組んでいく。



研究推進委員会… 校長、教頭、教務主任
 研究主任(井上) 副主任(小田島)
 上学年グループ部長 (井手) 下学年グループ部長 (島ノ江)
 環境整備部部長 (山口れ)

・ 構成部員

まなび部	下学年グループ	松浦 井上 島ノ江 白濱
	上学年グループ	山口と 井手 小田島 片渕
環境整備部	山口れ 北川 副島 (黒木) 江口	



(2) 授業作りと理論研究

・ 研究1年目となる今年度は、教科を限定せずに進めていく。国語科、算数科等の授業における言語活動を意識した授業作りや「活用力」(主体的に物事にに関わり、身につけた知識や技能を使い、自分の考えや思いを表現する力)につながる効果的な授業の進め方についての理論研究を行う。

授業作りについては、「授業作りのステップ1・2・3」を活用した授業実践を行い、授業力の向上や授業改善に取り組む。また、「西部型授業」を基軸に据え、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」のある授業スタイルを確立する。更に、児童が自分の考えを説明する場を設定し、互いの考えを尊重し合いながら交流することで、様々な考えに触れる良さを認識し、自らの考えや集団の考えを発展させることのできる授業作りを目指す。そのために、1単位の授業の中に、

- ・【考える・調べる】段階での表現する活動(言葉、文、絵、図、式等での表現)
- ・【深める】段階での説明する活動(学び合い)
- ・【まとめる】段階でのまとめる活動・振り返る活動

を設定し、重点化をはかる。

- 外部講師の活用については、1回目の研究授業をうけて、活用力をめざした授業について話していただく。また、夏休みに理論研究を深めるための研修を行う。佐賀大学、教育センターや事務所を通じ、活用力に造詣の深い講師を招聘する。

(3) 学びを支える環境作り

- 教科に関するコーナーの設置など、校内の環境を工夫する。
- 学習規律の確立、家庭学習の習慣化を図る。
- 「ヤッタータイム」を設定し、基礎・基本の定着をはかる。

(4) 児童の意識調査

- 5月と12月に意識調査を行い、その変容を見て、仮説の検証や次年度の次年度の研究に生かす。

(5) 学力調査の活用

- 国や県の学力・学習状況調査、CRT検査の結果の分析、考察を通して、児童の実態の把握を行い、学力の変容を分析する。

時 期 校内研修日	内 容	備 考
4月	研究主題・研究組織・研究内容・各部会の方針決定	研究推進委員会
5月	年間計画作成・各部会の活動内容決定 実態把握（アンケート作成・1回目実施）	校内研修 全体会
6月 ～ 7月	「活用力」についての共通理解 授業づくりについての検討 授業研究会（全体研【講師招聘】1回 G研 1回）	校内研修 全体会、専門部会
8月	講師招聘による理論研究 授業公開についての検討	校内研修 全体会、専門部会
9月 ～ 12月	授業研究会（G研 4回 ※特別支援2学級を含む） 実態把握（アンケート2回目実施・考察）	校内研修 全体会、専門部会
1月 2月 3月	授業公開(上学年から1学級、下学年から1学級) 授業実践の振り返り 本年度の研究のまとめ 研究の総括および来年度の方向性の検討	内研修 全体会、専門部会

○ 授業づくりについて

- 学級・児童の実態把握をもとに授業を組み立てていく。
- 教科・・・教科は限定しない。

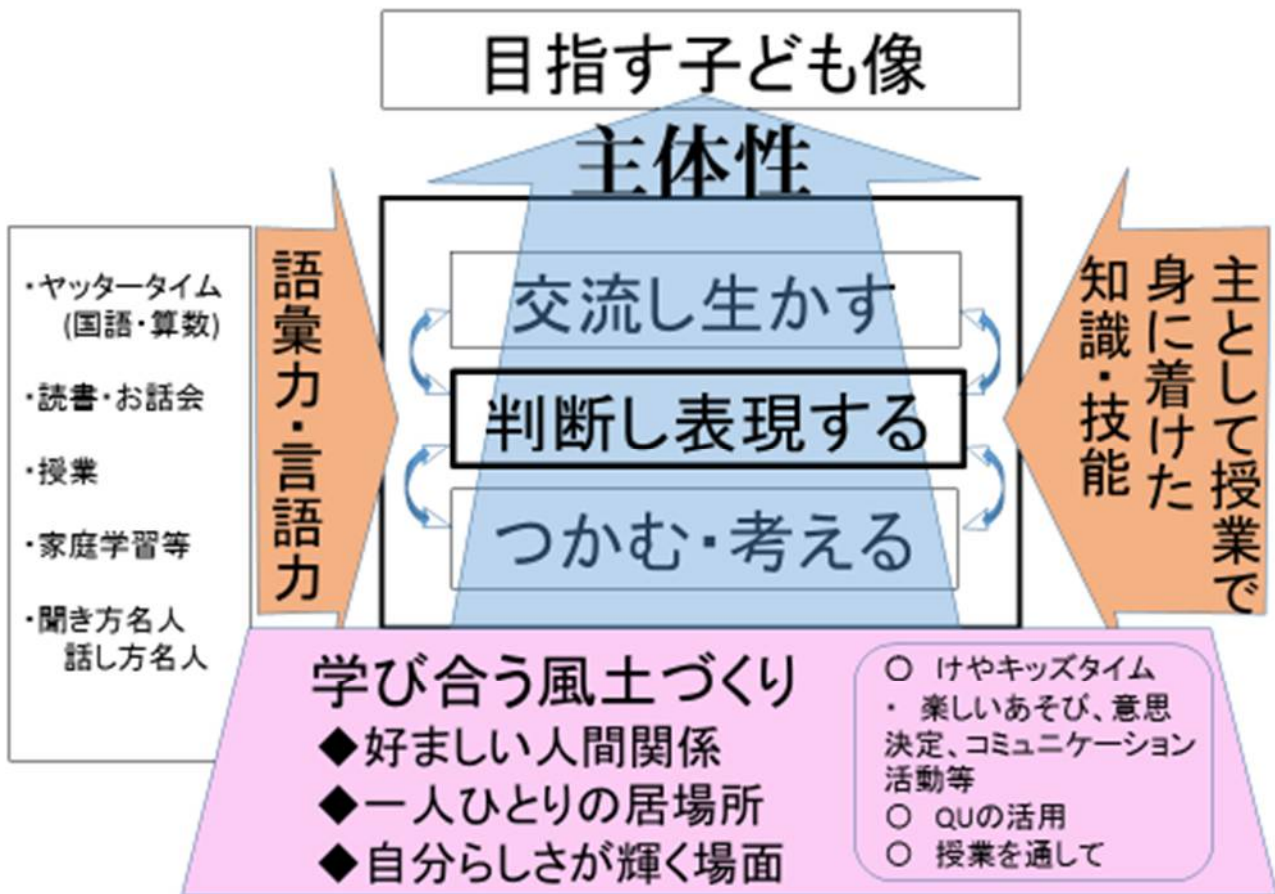
○ 児童の実態把握について

- 研究内容に応じた質問項目を考え、実態把握を行う。（5月、12月）

○ 研究授業と授業研究会の持ち方

- 〈1学期〉 活用力についての調査・研究
- 〈2学期〉 研究授業4回 （G研 4回）※特別支援2学級は実践及び資料提供
- 〈3学期〉 研究授業1回 （授業公開2学級）・・・授業公開の時期は1月中～下旬

5 研究の構想



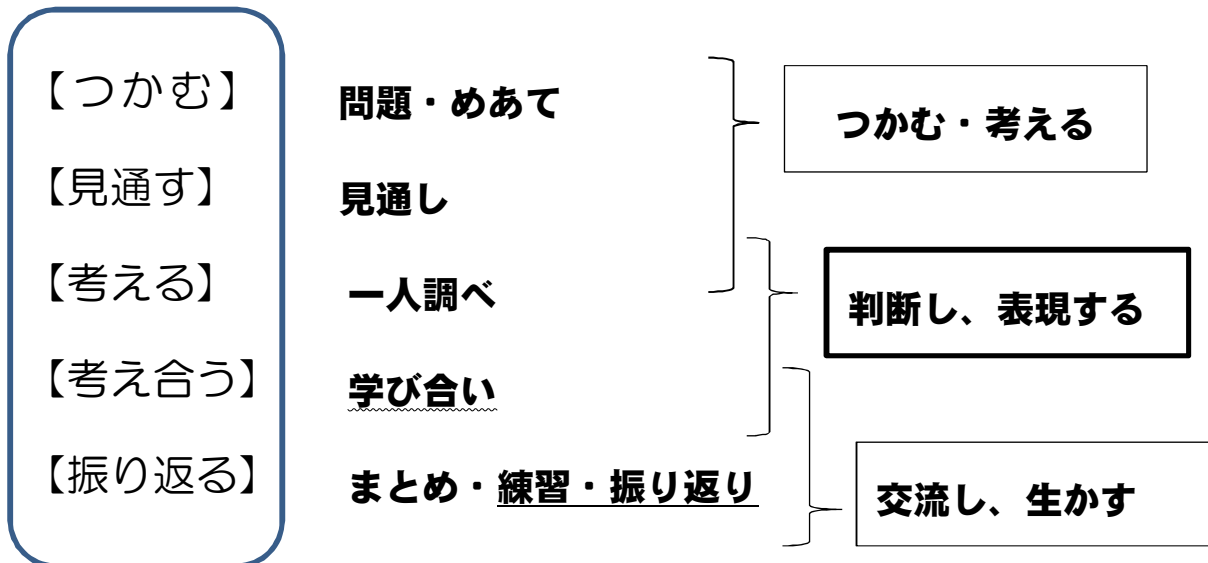
(1) 今年度の重点

- ・ 本校では、28年度までに、道徳や学級活動、特別活動を通して人権教育に取り組んできており、友だちの考えに傾聴し、自他の違いを認め合う風土が培われている。昨年度までの積み上げを大切にしながら、学び合う風土作りを土台として、活用力の向上を目指した授業作りを行っていく。児童が身につけた知識・技能を活用して、「つかむ・考える」活動、「判断し表現する」活動、「交流し生かす」活動を効果的に仕組むことで、児童の主体性を育てていきたい。研究1年目である今年度は「判断し表現する」に重点を置き、研究を深めつつ、目指す児童像に近づけていきたい。

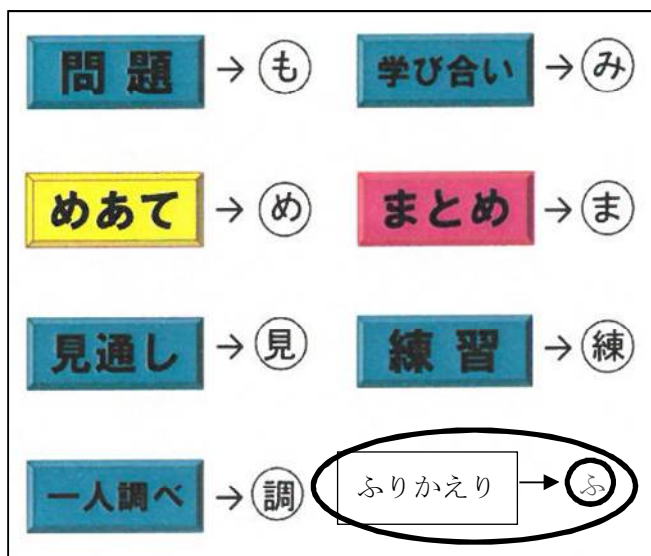
本校児童の実態として、語彙力、言語力に落ち込みがあることが挙げられる。活用力をはぐくむにあたり、語彙力、言語力の向上が課題となるため、朝の時間を活用したヤッタータイムや読書活動、授業での言語活動や家庭学習を通しての語彙の獲得など、日常の学習活動に語彙力、言語力の向上を位置づけている。

(1) 学習過程の確認

○ 西部型授業で



○ 本校の従来の学習過程のカード（「振り返り」を加える）



※振り返り

- ・ノートへの記述(一文でまとめる)…国語・生活科
社会・理科
家庭科・図工
- ・適用問題を解く。…算数

- 基礎・基本の定着
- 言葉、文、絵、図、式等で自分の考えを表現する活動……………「考える」過程
- 言語活動を中心とした学びあい……………「考え合う」過程
 - ・ ウェビング、座標軸、ベン図、KJ法など(西部教育事務所の「Q&A」参照)
 - ・ 「聞き方名人」「話し方名人」を活用し、温かい雰囲気

○ 「めあて」「まとめ」「振り返り」の確実な位置づけ